「教育実習体験レポート」

［公立高等学校　公民］

私は他の実習生の方と同じように 6 月、高校へ赴き 2 週間、一般的な実習を行った。ただ、1 つ異なっていたのは行った学校が本来縁のない高校に実習に行くことになった。苦労はしたがその経験は非常に成長につながるものだった。

この実習で私が最も感じたのはこれまでの自分の思考や視野がどれだけ凝り固まっていたかということだ。私は 1 番初めの授業でそれまで模擬授業で練習し、自信のあった授業を行った。しかし、生徒からの関心は一切引けなかった。実は実習校は就職する生徒が多く、学業に関心がない生徒も多くいる学校だった。それに対し、私が行った授業は高校時代受けてきた経験から作られたもので、あくまで生徒が授業を聞くという理想を前提に作られたものだった。ここに大きな乖離があった。私はそのような授業が当たり前だったが、生徒たちはそれが当たり前ではない。自分の常識が生徒たちにも常識であると思い込んでいたのだ。それから私は教科書の内容も教えつつ、話題への関心を引くことを第一に行うように授業を作り替えた。元の授業とのギャップに悪戦苦闘しながらも最終的には生徒も前を向いてくれる授業にすることができた。

私から伝えたいことはありきたりだが「世界は広い」ということだ。私も含めて大学生はこれまで自分とある程度似たような価値観、思想を持った人との交流が多かったと思う。しかし、社会に出ると様々な価値観を持った人と交流し、ものを作り上げていく機会のほうが多くなるだろう。そうなったときにこれまで自分の思考の外側にあった考えをいかに受容し、対応していくかということが重要になる。教育実習はそれを社会に出る前に体感できる貴重な機会だと思う。授業の完成度を上げるのはもちろん重要だが、柔軟な思考をもって様々な価値観に触れることもまた重要な目的にしてほしい。